

二〇一四年二月七日

ごと転ぶ残念石に下萌ゆる
狢犬の鼻面を這ふてんと虫
鏡なすダム湖へ峡の雪霏霏と

菜々
さつき
雅流

清貧に母は天寿や冬すみれ
蹲踞に青空映る庭の春
水仙花寢墓の丘を埋めつくす

雅流
菜々
さつき

二〇一四年二月六日

悴める手もて一願石撫づる
野ざらしの地藏は春の雪帽子

つくし
ぽんこ

毎日句会みのる選・二〇一四年二月九日

二〇一四年二月五日

春立つやゆるりと動く池の鯉

雅流

二〇一四年二月四日

立春の神馬はペンキ塗り立てと
夕千鳥煌めき翔ちし渚かな

治男
三刀

二〇一四年二月三日

ハンドベルめきたる軒の雪雫
福豆を噛みて機嫌や長寿眉
五指組みて祈るマリヤに春日燦

さつき
三刀
ぽんこ

二〇一四年二月二日

蒼天へ背伸びするごと冬木立
通夜僧を見送りてより月冴ゆる
どてら着て犬の散歩す里の道

有香
雅流
さつき